



リンとフク  
原田 尚美  
創災美術協会所属  
(守山区)

### 仲居名

名古屋市の各区役所・支所・転出に関する業務や各所で日曜窓口を実施している。種証明書の交付など。詳細は、実施日は3月24・31日、4月7・14日、以降は毎月、日曜窓口の実施。たは名古屋おし原則第1日曜日(いずれも、えてダイヤル295317午前8時45分ー正午ま584まで。おかけ間違いで)。主な取扱業務は、転入に注意ください。

# 島復興 大島中生が撮る

## 瑞穂の 加納さんの 写真サークル支援

東日本大震災の被害の風化が危ぶまれる中、三千人が暮らす宮城県気仙沼市沖大島に毎月のように足を運び、支援活動を続ける人がいる。瑞穂区の医療系まちづくり団体「日本メディカルオアシス研究会」理事長で一級建築士の加納隆

## カメラ媒介心のケア

八百戸近くが被災する姿…。生徒らが撮る展を開いた。し、三十四人の死者・りためたショットは写心。心の傷は簡単には癒いう感謝の言葉が届くようになった。加納さんは中区の出っいていた時に「津波の

興の歩みを記録してもらわつと、島で唯一の大島中学校の生徒たちに一眼レフカメラを贈り、写真サークルを立ち上げた。津波でトラウマ(心的外傷)を抱えた生徒に「カメラを媒介にして島の人たちと接し、つらいのは自分だけじゃない」と感じてほしい」と思ったからだ。ふとした瞬間に見せるあどけない表情、がれき処理の現場を取材



がれき処理の様子を取材する生徒の姿をとらえた作品＝宮城県気仙沼市の大島で、いずれも加納隆さん提供



大島中の生徒が、写真サークルの仲間を撮影した写真



大島の支援活動などについて講演する加納隆さん＝昭和中区の南山中で

建築を学び、一級建築士となった。二〇〇四くなくなった子どももい仕事を見つげると、年、県内の医療系の大との話を聞き、精一家を連れて行ってし学教授や建築関係者ら神的なケアが必要と感ま。このままでは島とともに、医療福祉をじた。岩手、宮城県は震退する」。大島中核としたまちづくりをの約十五校に支援を申の写真サークルの部長考える日本メディカルし入れ、賛同してくれだ。男子生徒は親のオアシス研究会を設たのが大島中学校だ。立。この勉強会に所屬た。島は今、がれきは片廃部となった。ちにも、遠く離れた被え。気仙沼市による災地を思い続けてはし減った。働く場を求い。そんな願いから、時間の道のりを通い続けるという。